

あぐり最前線



土壌分析をしましょう！

—コスト低減に向けて—

J Aでは、肥料の過剰施肥による無駄をなくしコスト低減に繋げるため、土壌分析を毎月実施しています。分析を希望される方は、約1合程度(20g)を採り、必ず土壌を乾燥させてから袋に入れ、住所氏名TELと、水稲・野菜(キャベツ、ハクサイ等)・果樹(ミカン、カキ等)など品目を記入して、9月13日(金)までに各営農センターへ「持参ください。分析結果は10月中旬頃に」ご連絡いたします。

市場出荷休日カレンダー (野菜・果樹)

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

×は出荷できない日 □は日曜・祝日等

※防除薬剤のあとの数字は、安全使用基準で、(収穫何日前まで使用可能か/通算使用可能回数)を表しています。農薬は農業安全使用基準を守り、正しく適期に防除してください。

例)表記が(14日/2回)の場合:収穫14日前までに2回使用可能

水稲



◎基幹防除(カメムシ類・ウンカ類)
▽9月上旬(晩生) 200倍(7日/3回)
・スタークル(類)

トビイロウンカ・カメムシ類の発生に注意しましょう!!

乳熟期以降(2回目の防除後)に発生がみられる場合、早生品種など収穫適期を迎えた圃場では、速やかに収穫しましょう。また、中晩生品種など収穫まで日数がある場合は、防除薬剤を散布しましょう。

◎薬剤

・エミリア(フ) 1000倍(7日/2回)
ポイント
ウンカは株元に生息・増殖し被害を引き起こします。カメムシは穂の周辺に飛来し被害を発生させます。防除をするときは稲全体に薬液がかかるよう散布して下さい。

◎良質米に仕上げて

いよいよ極早生品種から収穫を迎えます。左記に収穫予定日を記載しています。生育状況を見て適期刈り取りを励行してください。

(6月5日田植えの場合)

- ※キヌヒカリ▽9月7日~13日
- ※にじのきらめき▽9月12日~20日
- ※きぬむすめ▽9月20日~30日
- ※ヒノヒカリ▽9月25日~10月5日
- ※にこまる▽9月28日~10月8日

●登熟期

・登熟初中期は、デンプンの蓄積が盛んな時期なので、間断かんがいを行い可能な限り落水時期を遅らせましょう。
・登熟期に高温が続くと白未熟粒が発生し、品質が低下してしまいます。

ポイント

・早期に落水すると、登熟不良により胴割粒、未熟粒等が増加して外観品質が低下するとともに、玄米中のタンパク質含有率が高まり食味も低下します。コンバイン収穫に支障がない範囲で落水時期を遅らせましょう。また、遅めの落水は高温年における白未熟粒の発生などの高温障害を抑えられます。
・落水の目安は収穫の5~10日前で、水田の乾湿、降雨状況を加味して加減してください。

●収穫

・高品質良食味米の生産には適期収穫が不可欠です。
・早刈りは、青米や未熟粒の増加や収量低下の原因となります。逆に、刈り遅れは、着色粒や胴割粒が増加して品質低下を招きます。

ポイント

①収穫適期は、黄化した籾割合が85~90%程度になった頃を目安とします。
②多肥栽培では、茎葉や穂軸は青くても籾は成熟している場合があります。

などでは、茎葉や穂軸が黄化しても籾は熟していない場合があります。茎葉の色だけで収穫適期を判断せず、籾の黄化具合で判断しましょう。

●調整

○玄米水分は14.5%
収穫後、できるだけ早く(4時間以内)通風してください。

*高温、急激な乾燥は胴割米の原因となるため避けてください。

○よい調整で良質米に仕上げましょう
乾燥直後の籾すりは肌ずれ米や胴割米になりやすいので、温度が下がってから始めましょう。肌ずれ米は、保管期間が長くなればカビ等の発生につながりやす。

◎籾・異物等の混入に注意しましょう

○正味重量(玄米重量) 30kg確保
決まった量目を必ず入れましょう。

*保管中に水分が蒸発し、1%の水分減で30kgあたり約300gの減量となります。

●稲わらの処理

大雨で流れ出さないよう、早めにすき込むか積み込みましょう。

*コンバインで裁断された稲わらは、しっかりと土にすき込み、十分に腐らせることで土壌中の腐植が増加し、地力の増進が図られます。

◎出荷7日前までには防除記録簿をJAへ提出してください。

*保米以外は全量出荷をお願いします。*種籾は定期的に更新し、品質の低下を防ぎましょう。



●育苗

▽播種後

日焼け防止のため寒冷紗等で被覆し、プラグトレイの7割程度が発芽した頃に除去します。除去が遅れると苗が徒長し、軟弱になるので注意してください。

■灌水

本葉が出るまでは控えめにしましょう。過度の灌水は、苗を徒長させるため注意してください。プラグ育苗の場合、トレイの端が乾きやすいので注意してください。

■液肥

播種10日頃から生育を見ながら、液肥を100倍で施用してください。

●病害虫防除

▽播種後土後〜育苗期後半
・ミネクトデュオ(粒) 40g/トレイ(1回)

▽定植前日〜当日(根こぶ病対策)

・ランマン(フ) 500倍(2回) 灌水/トレイ(1回)

●定植

苗を15cmぐらいに切りつめ、株間12×15cm毎に1カ所につき8〜13本で植え付けます。定植後は、浅植えにするとともに十分灌水を行い、活着を促しましょう。

●病害虫防除

▽定植前日〜定植時
◎スリップス・ネギハモグリバエ
・スタークル(顆) 50倍(0.5回) 灌水/箱(1回)



9〜10月は貯蔵養分を蓄える時期です。土作りにより、樹体の維持・向上に努めましょう。

●土作り

・完熟堆肥(200kg/10a)
または
・新ふりかけ堆肥eco(200kg/10a)
・苦土セルカフミン(120kg/10a)

●夏期剪定

秋季に樹体内養分を蓄積する前に、不要な立ち枝や徒長枝を切除することで樹勢を落ち着かせる効果があります。また、側枝への日当たりがよくなり花芽や葉芽が充実します。ただし、樹勢の弱い樹では、ますます樹勢を弱らせることになるため控えてください。



引き続き適期収穫に努めましょう。

●収穫

収穫は果実温の上がない早朝に行

苗の大きさが、本葉3〜4枚の頃が定植適期です。老化苗は、活着が悪く生育不良の原因となるため注意してください。

※キャベツ・ブロッコリー

25〜30日苗を定植します。

※ハクサイ

18〜20日苗(若苗)での定植を心掛けてください。

●施肥

やむを得ず老化苗を定植した場合や活着不良の場合は、定植3〜4日後に、千代田472(40kg/10a)を植筋に施用し、初期生育を促しましょう。



●播種

プラグトレイに与作N15を土詰めし播種したあと、バーミキュライト等で覆い、灌水してください。

発芽までは一定の温度を保ち、発芽後は寒冷紗等で日よけを行います。育苗期間中に降雨がある場合は、トンネル等で被覆し、雨がかからないようにしましょう。

●定植

本葉3〜4枚の苗を、根鉢を崩さないように浅植えにします。苗には植え付け前日に、十分に灌水をしておく根鉢を崩すことなく定植ができます。

育苗日数が長くなり、根巻きしている場合は根をほぐして定植しましょう。ただし、老化苗を植えると活着が遅れ、よい玉の収穫が望めないため注意が必要です。

●除草

定植直前に10a当たり、トレファノサ

イド(乳)200〜300mlを水100ℓに溶かし、土壌表面に散布します。



●施肥

▽9月下旬

気温が低くなると、根からの肥料吸収が悪くなってくるため液肥(マンスリー2号等)500倍〜1000倍を1週間間隔で午前中に散布しましょう。

●病害虫防除

▽9月中旬
◎褐色腐敗病・うどんこ病
・フォリオゴールド 800〜1000倍(前日/3回)

◎ハスモンヨトウ・オオタバコガ

・トルネードエースDF 200倍(前日/2回)



●作型

青首ダイコンでは、年内収穫、年明け収穫がありますが、いずれの作型でも若どりが大切です。適期収穫に努めてください。

●施肥

施肥、とりわけ追肥は分けて施用するほど、若々しいダイコンになります。

●病害虫防除

◎黒斑細菌病

黒斑細菌病は、土中で1年以上生きています。土が第1次伝染病源となって、土壌と空気から伝染します。高温多雨の



9月に入ると早生の着色期に入ります。9月中旬にシルバーマルチを敷設しましょう。

●刀根早生の摘葉

収穫10〜15日前より果実にかぶさるような葉を3枚程度摘み取り着色向上に努めてください。

●平核無・富有

小玉・傷果等の見直し摘果と摘葉を行いましょ。

●病害虫防除

▽9月下旬 ※富有柿
◎カメムシ類
・スタークル(顆) 200倍(前日/3回)
・うどんこ病・炭そ病
・スコア(顆) 300倍(前日/3回)

台風や秋雨で降雨が続いた場合、炭そ病の発生が多くなります。炭そ病は、はじめに黒い斑点が現れ、しだいに病斑が拡大して指で押したように少しくぼんだ直径1cmぐらいの大きさになります。発病した果実は落下しやすく、成熟間際の果実では早く着色するのが特徴です。気象に注意して薬剤散布しましょう。



極早生の収穫が始まります。

●樹上選果

極早生の中でも早熟系統の品種の収穫

年に多発するので予防散布に重点を置いてください。なお、発病は肥料切れや風雨・霜により生じた傷口から感染します。

▽10月上旬

・カセット(水) 1000倍(14日/3回)

▽10月中旬 ※年内どり品種

・マイシールド 750〜1000倍(14日/3回)

◎テツポウ虫(キスジノミハムシ)

ダイコンの根元に小さな穴を開ける害虫です。この虫は、幼虫になって土の深いところまで越冬し、7〜8月に土中で蛹になり、10日程度で蛾になります。この蛾がダイコンの株元に卵を生み、卵は10日〜3週間であらゆる食害します。

▽播種時

・フォース(粒) 6〜9kg/10a(全面土壌混和/1回)

耕種的防除では、有機と名のつく肥料の追肥は絶対に施用しないでください。

◎白さび病(わかか症)

多発園ではチッソ肥料を減らすとともに、土壌消毒及び

・ダコニール1000 1000倍(45日/3回)

または

・ランマン(フ) 200倍(3日/3回)

を間引き直後に1回目、その10日後に2回目、その10日後に3回目の散布をしましょう。このとき地際部まで濡れるように「たっぶり」と散布することが大切です。



●定植

畝幅120〜130cmに4条植えにします。

が9月下旬から始まります。収穫前に、品質の劣る日焼け果や傷果を取り除きましょ。また、減酸が極めて早く進みますので、適期収穫に努めてください。

●仕上げ摘果

早生・中晩生種については、品質の仕上げ期になりますので、仕上げ摘果や低品質果実を取り除きましょ。

●病害虫防除

▽8月下旬〜9月中旬
◎ミカンハダニ・ミカンサビダニ
・チャノホコリダニ
・ダニゲッター(フ) 200倍(前日/1回)

◎浮皮軽減対策

秋季の高温や多雨は、浮皮の発生を助長します。園内が多湿にならないよう風通しを良くすると共に、バイカルティ1000倍(3回以内)を防除の際に加用しましょう。

▽収穫前

◎貯蔵病害
・トップジンM(水) 200倍(前日/5回)

または

・ペンレート(水) 400倍(前日/4回)

または

・ペフラン(液)25 200倍(前日/3回)

*収穫1週間前に散布することで予防効果

果を高めることができます。

*ペフラン(液)25は、多湿園では着色ム

ラを生じることがあるため使用しないでください。

野菜移植機レンタルサービス 申し込み受付中!!

レンタル利用対象者

J Aわかやまの組合員

利用時間

利用時間の単位は1日(8:30~17:00)です。
※上記利用時間以外はご相談ください。

お願い

レンタル農機は組合員皆さまの資産です。
適正な使用を心掛けてください。

利用料

野菜移植機 (半自動・往復2条植え)

5,000円 (税込) / 1日 ※回送・洗浄・メンテナンス費を含みます。



野菜移植機レンタルサービスの詳しい利用方法・利用規約については、お気軽にお問い合わせください。

西部営農センター ☎480-3450

北部営農センター ☎464-4560

中央営農センター ☎471-0102

南部営農センター ☎444-0390

東部営農センター ☎488-3190

和歌山県からの重要なお知らせ(特になし・りんご生産者の皆さまへ)

かしょうびょう 火傷病の発生防止に万全を期すためのお願い

●火傷病(かしょうびょう)について 【特徴的な症状】 葉や枝が火にあぶられたような症状



- 農林水産省は中国で火傷病の発生を確認したため、令和5年8月30日から中国産なし・りんごの花粉等の輸入を停止しています。
- 国内では未発生ですが有効な防除方法はなく、感染すると樹全体が枯死するなど、全国に大きな影響を及ぼします。
- 火傷病に感染した花粉で授粉作業をすると伝染する恐れがあります。

●お願い

【重要】入手時期や生産年度にかかわらず、全ての中国産花粉の購入・使用はしないでください。

J Aや県の火傷病症状の調査にご協力ください。疑わしい症状を見かけたり、不明な点はJ Aまたは振興局へご連絡ください。

お問い合わせは 和歌山県海草振興局農林水産振興部農林水産振興課 (☎073-441-3378) または、最寄りのJ Aわかやま営農センターまで

農薬使用の基本を守りましょう

農薬の使用方法を必ず確認

- ◆ 農薬登録のある農薬を選び、使用目的にあった農薬を使う。
- ◆ ラベルにある作物以外には使わない、適用内容の範囲で使用する。
- ◆ 使用量・希釈倍数は記載の範囲内で調整し、散布方法を守る。
- ◆ 使用時期、収穫前日数は必ず守る。
- ◆ 農薬の使用回数を確認し、成分ごとの総使用回数を守る。

農薬ラベルの確認ポイント

- 農薬登録番号のある農薬を使いましょう**
人畜や作物への安全性が確認されたものを農林水産省が登録しています。
- 使用してよい作物を確認しましょう**
ラベルの適用作物欄に記載のない作物には使えません。作物グループの場合は、含まれる作物を確認してください。
- 適用内容の範囲で使用しましょう**
作物への効果、農薬の種類や希釈方法を確認し、使用方法が決められています。使用量・希釈倍数・使用時期・収穫前日数は必ず守ります。有効成分毎の総使用回数を超えないようにしましょう。
- 効果的な使い方、害虫防除のための注意点を確認しましょう**
- 安全に使用するための注意事項を守りましょう**
保護具の着用、水産動植物への影響、水田での7日間の止水管理、農薬の保管管理の徹底など注意すべきことを確認します。有効期限が切れたものは使用しないようにしましょう。

農薬散布作業は適切に

- ◆ 農薬の使用量・散布方法を確認し、適用の範囲で使う。
- ◆ 散布圃場面積にあわせ、散布液は残らないよう調整する。
- ◆ 農薬飛散防止のための基本的な施用法を実践する。
- ◆ 農薬が周辺に飛散・流出しないよう、圃場管理や7日間の止水管理を徹底する。



作業者の安全・保護具の着用

- ◆ 農薬使用時は、防除衣、農薬用マスク、手袋などの適切な保護具を着用する。
- ◆ 健康管理を日頃から行い、体調を整えて作業を行う。

農薬の保管、防除器具の管理

- ◆ 農薬は専用の保管庫で鍵をかけて管理する。
- ◆ 使用済みの農薬空容器等は適切に処分する。
- ◆ 散布器具は日頃から整備し、使用前の点検、使用後は確実に洗浄する。
- ◆ 廃液などは河川等の水系に流れないように注意する。
- ◆ 最終有効年限が過ぎた農薬は使わないようにする。



防除記録と確認

- ◆ 圃場、作物ごとに日誌を作成し、区別できるようにする。
- ◆ 土壌消毒、種子消毒段階から使用農薬を記録する。
- ◆ 散布日、農薬名(剤型)、希釈倍数、使用量は必ず記録する。
- ◆ 成分ごとの総使用回数は農薬散布前にチェックする。
- ◆ 収穫予定日を確認し、農薬の収穫前使用日数を必ず守る。
- ◆ 病害虫の発生状況、防除効果をメモしておく。

記帳のポイント

- ポイント1** 日誌は作物・圃場別に
● 農薬使用が異なる作物や圃場は、別々に管理する。
- ポイント2** 使用量も正確に
● 使用した農薬を最後まで正確に記入。
● 何日か使用する農薬は、事前に登録内容を記載しておく。使用量の確認が容易になる。
- ポイント3** 収穫スケジュールを記入
● 収穫前日に収穫日誌が印されるが、使用回数がオーバーしないよう確認する。
● 収穫の予定日も記入しておく。
- ポイント4** 記録メモ
● 散布日、希釈回数や使用量、散布回数などを記録ごとに正確に記入。
● 防除目的の農薬名その他、発生状況もメモしておく。